



ガバナー 近藤 雅臣

プロフィール

第2660地区ガバナー

近藤 雅臣

1930年7月20日生。60年大阪大学大学院医学研究科修了。医学博士。大阪大学名誉教授。環境保全功労者滋慶教育科学研究所長。大阪ハイテクノロジー専門学
校長、大阪保健福祉専門学
校長。摂南大学客員教授。
総理府中央環境審議会委員。通算省化学品審議会委員。
厚生省食品衛生調査会委員。大阪府薬事審議会会長。
ロータリー歴 76年千里（吹田北）RC入会。理事。会
長。地区委員。米山功労者。PHF。

地区ガバナー就任のご挨拶

—— Show Rotary Cares (ロータリーの心を) ——

ガバナー

近藤 雅臣

1997年7月1日、新しいロータリー年度が始まりました。昨年5月に突然ガバナーノミニニーに指名されて以来、またたく間にガバナー就任を迎えました。その間、日増しに役目の重圧感がのしかかってまいりましたが、生来の根明かさが手伝ってくれたこともあって、前向きに、明るくそして誠心誠意皆様とともに悩みや喜びを分かち合い、この大役を全うできればと自らを励ましている次第です。ロータリー活動が真にその目的を達するためにはロータリアン個々の、そして、そのロータリアンが構成するクラブの自覚と行動があってはじめて成就されるものであります。この大切なクラブの運営を担われるクラブ会長、幹事の皆様にはこの一年間大変なお役目となりますが、どうか素晴らしいリーダーシップを発揮されて輝かしい年度にして頂きますようお願い申し上げます。私は、ロータリーには役目はあっても階級はなく、すべて同じロータリーの心と目的をもった者同士の集まりであると考えています。RI会長をはじめガバナーもすべて1ロータリアンであります。ただ、役目を頂いてロータリーの崇高な目的を皆様とともに達成するための相談役として奉仕する役割を課せられたものと理解しています。しかし、この相談役は、反面、その目的を達成するために皆様に励まし、よりよい道を開拓して頂く役目すなわち推進役でもあると心得ています。

さて、グレン W. キンロス RI会長は世界理解と平和を究極の目標とするロータリーにとって最も大きな障壁となっているのが貧困と飢餓の問題であると指摘しておられます。貧困と飢餓がどこかに存在している限り、決して世界理解も平和もあり得ず、ましてやそれによって次の世紀を担うべき子供たちにまで犠牲を強いてはならないと強調されました。そして、『貧困と飢餓との地球規模の闘い』を重点目標とし、これに向けてロータリーの心をわれわれの行動で実証しようと提唱されました。

『貧困と飢餓との地球規模の闘い』

1997-98年度中、あらゆる地域社会で、あらゆるロータリアンに対して——飢える人に食糧を提供することによって；貧困からの脱却を援助することによって；基本的読み書き能力と計算能力をあらゆる人に身に付けさせることによって；子供たちが虐待されたり放置されたりしないように守ることによって；あなたの都市や町を働きやすい住みやすい場所にするプロジェクトを実施することによって；そして、常に方便よりも原則を重んじて、事業や専門職務の高度の道徳的水準を掲げるよう全ロータリアンに奨励して職業奉仕を実践することにより——ロータリーの心を示そうと要請されました。

『ロータリー精神の原点に立ち戻り、ロータリー活動を見直そう』

私は、今年度のRIの方針のもとにこの地域に、そして、それぞれのクラブにふさわしい活動を皆様とともに考え、実践してゆきたいと念願しております。その為には、まず、もう一度“ロータリー精神の原点に立ち戻り、ロータリー活動を見直す”ことから始めたいと思っております。私は何度も申し上げましたとおり、ロータリーの原点は“愛”であり、ロータリーは愛にはじまって愛に終わる奉仕の理想を追及する個々のロータリアンの結合体であると考えています。そして、私たちの理想的な人生は、愛によって生まれ、愛によって育まれ、愛の手を差し伸べて喜びを分かち合い、愛に囲まれて終わりたいものであって、今私たちは愛の手を差し伸べて喜びを分かち合う年代にあるといえます。これを踏まえて今私たちは、ロータリアンとしての誇りと喜びに自信が持てるか、クラブ活動、地区活動がマンネリ化していないか、改良、改廃の必要はないかなど見直す時期にあるのではないかと考えています。お互いに切磋琢磨して真のロータリー活動への発展の基礎づくりができればと願っています。このような思いで、私は、今年度の地区運営の基本的理念としてもう一度『ロータリーの原点に立ち戻り、ロータリー活動を見直そう』と皆様に呼びかけています。

この基本的理念の上に立って、グレン W. キンロス会長が上記の重要課題とともに提唱された以下の項目を参考にして下さい。

『四大奉仕部門すべてにロータリーの心を』

クラブ奉仕部門

新会員の心をとらえられるような奉仕プロジェクトを開発し、入会の動機を提供するとともにすべてのロータリアンに真のロータリアンとなれるような経験と、指導力を発揮できるような機会を提供して下さい。

社会奉仕部門

クラブが地域社会の指導者であることを明瞭に示すような社会奉仕プロジェクトを開発して下さい。最も困難な地域問題、貧困、児童虐待、青少年の薬物乱用など、他の団体のためにただお金を集めるだけでなく、自らのプロジェクトによりロータリー

の足跡を残して下さい。そして、これらのロータリー活動の情報を地域に浸透させ、地域社会にロータリー活動を理解してもらうようにして下さい。活動の立案、実施のすべての段階に会員を参加させましょう。

職業奉仕部門

専門職務、同業者団体で指導的役割を引受け、ロータリーの理想と高度の倫理的水準を同僚や同業者と分かち合ってください。専門職務、同業者団体を通じて直接あるいは間接的にロータリー活動を支援して下さい。

国際奉仕部門

貧困、飢餓に対する挑戦、そしてその原因のひとつと考えられる低い識字率を向上させる世界社会奉仕プロジェクトを支援して下さい。世界平和へのロータリーの人道的活動をさらにひろげるためロータリー財団プログラムに参加して下さい。年次基金、恒久基金への寄付を通じて財団を支援して下さい。

本年度の地区目標は現在の経済事情を考慮し、年次プログラム資金として前年度と同額の680,000ドル、恒久基金は81人としておりますのでより一層のご協力をお願いします。

『会員増強とクラブ拡大』

ロータリーの最大の資産は常に個々のロータリアンであるといわれています。一人の会員を失うごとにその資産は減少し、一人の会員を得る度に資産は増加して奉仕の可能性が増大します。ロータリーは世界中の人々の生活の質を向上させるため活動することにより“ロータリーの心”を示すため成長し続けなくてはなりません。会員の増加はこの目的の達成の為に必須のものであります。会員ひとりひとりがこの目的を理解し、新しいロータリアンをみつける喜びと責務を感じて頂きたいと思っています。同時に大切なことは如何にして退会を防止するかということにあらゆる努力を惜しまないことです。

地区としての本年度の目標は純増で2%としていますが、これは最低線であります(RIでは3%以上としています)。皆様の熱意に心から期待しております。

クラブ拡大は地域におけるロータリー活動の発展に大切なことであります。会員数の多いクラブはそれなりに利点があると同時に難点もあります。クラブ活動が特定の集団に限られ、傍観的立場に立つ会員をつくりがちであります。職業分類上の制約を厳密に考えれば、同一地域内ではロータリアンにふさわしい人がいても入会してもらえない場合も有り得ることです。拡大によりこれらの人々を受け入れることができ会員増強にもつながります。スポンサークラブとして新しいクラブの創設に関わり、支援することに喜びを感じて頂きたいと願っています。

本年度の地区の目標は1クラブとしていますが、無理のない範囲でこれ以上拡大できればお互いに喜びを分かち合えるのではないのでしょうか。

『地区委員会に特別奉仕部門の新設』

ロータリークラブは専門職、事業あるいは同業者団体の指導的役割を担い、ロータリーの理想と高度の倫理的水準を広く社会に拡げ高める人達によって構成されています。この卓越した人材集団には多くの社会的義務が課せられているものといえます。そのひとつとして、われわれロータリアンのそれぞれの分野における最高の叡知を結集し、地域の、国の、そして世界社会の健全な発展のためのオピニオンリーダーとしての役割を担うべきではないでしょうか。この意味で新たに特別奉仕部門を設け、社会的に重要な課題を捉え、それらの議論を通じてロータリーの心を社会に提言していくことができると考えました。差し当たっては、交通問題特別委員会、教育問題特別委員会などを設置したいと考えています。なお、2004年に大阪を中心として開催される世界大会に関する特別委員会も設けました。

以上、1997ロータリー年度のRIの方針をもとに私の考え方を付け加えさせて頂き述べてまいりましたが、これらはすべて地区ロータリアンの皆様、各クラブそしてこれらをまとめていかれる会長、幹事の皆様方の御支援、ご協力なくてはとても達成できるものではありません。何卒宜しくお願い申し上げます。勉強不足で足りない点多々あると思いますが、ご指摘、ご鞭撻頂ければ幸いです。共に学び、共に行動し、愛の手を差し伸べ、喜びを分かち合い、ロータリーの心を拡げましょう。公式訪問の際、親しくお目に掛りお話し合いできることを楽しみにしております。